

社内打合せ資料：今いる従業員の仕事を奪えない。

■ 議案&背景

社長と数名の社員で経営をされている企業さまのヒアリング

- ・ 社長が経営全般を取り仕切り、帳簿関係を含めた経理業務全般をパート社員が行う。
- ・ パート社員は経理業務全般と併せて、いわゆる管理部門や営業部門の雑務的なものも行う。
- ・ パート社員は 10 年以上の付き合いがある。
- ・ 週に 1 回 2 回程度で、月額数万円の賃金を払っている。
- ・ パート社員に不満はないが、決まったこと以外の業務例えばスポットで突然入った業務は対応できないという悩みもある。

こういった状況で、経営者様から

「今いる従業員の仕事を奪ってまで外注に出すつもりはない」という意見をいただいた。

ただし、外注（当社 BIZIN+を含めた）には興味がある様子なので、今後の提案内容やコミュニケーションの取り方について社内で揉みたい。

■ 結論

無理やり納得していただくような提案はしない。

下記のようなコミュニケーションを取りながら、何かのときに「便利屋 BIZN+」を思い出していただく。

■ 考察ポイント

- ✓ 現在働いていらっしゃる従業員さんの仕事は奪わない。

社長さまと従業員さんの長年の付き合いもあるであろうということ、また従業員さんも突然仕事が奪われたときには生活に困ることがあるかもしれない。

そんなことが推測される中で、BIZIN+が仕事を奪ってしまうことは本意ではない。

また、従業員さんの立場からすると自分の給料分を人に取られる感覚があることから、仮に弊社が仕事をいただいたとしても引継ぎはスムーズには進まない。

以上から、無理な提案は一切しない。

- ✓ どんなときに必要としていただける可能性があるのか？

仕事を奪わないことを前提に、必要とされる可能性がある場面をピックアップする。

- ①急に休まなければいけなくなった。
- ②事業拡大で、ルーティーン業務に手が回らなくなった
- ③時期や季節でスポットで人の手を借りたい。
- ④今の業務以外のことが発生した。
- ⑤退職時。

⑥BIZIN+からの支払いとする。

■ 個別に検証

① 急に休まなければいけなくなった。

夏休みなどで連休を取りたい場合もあるかもしれない。それを想定しておいてバックアップとして頭の隅に覚えておいていただく。

また、ここ最近では新型コロナにより自宅待機なども起こるかもしれない。

その場合には緊急であろうから、まずは連絡をいただけるように定期的にご連絡をしておく。

② 事業拡大で、ルーティーン業務に手が回らなくなった。

限られたスタッフの中で事業を拡大する場合には、現状の業務時間を削らなくてはいけない。

経営陣や従業員の業務の中で人に振れる業務を見つけていただく。

事業拡大や新規事業は経営陣やベテラン従業員が取り仕切るべき。

そのための時間を作っていただくための弊社サービス。

③ 時期や季節でスポットで人の手を借りたい。

年末年始のお歳暮や年賀状発送、年度末の棚卸などが典型例。

いつもは必要ないが「ここだけスポットで」というものにも対応させていただくことを伝える。

④ 今の業務以外のことが発生した。

長年、ルーティーンワークだけを淡々とこなされるパート社員に時々見られる傾向。

例：毎月の帳簿入力はきっちりとこなす。が、インボイス制度に伴っての新会計ソフト導入については、前向きでない。

緊急時の対応やスポットで対応させていただくことを伝える。

⑤ 退職時の引継ぎとして。

従業員が退職する際に、引継ぎする新社員がすぐに見つかればいいが、そうでないときに一旦弊社に振っていただくという考え方。

⑥ BIZIN+からの支払いとする。

かなりレアなケースではあるが、既存従業員の支払いを弊社からするという考え方。

現在の時給や日給などの諸条件を保ちながら、BIZIN+からの仕事もプラスされる可能性。

(つまり、月の賃金が上がる可能性があるということ)

■ 特に注意すること

外部の人間や会社が入ってきたときに、例え「万が一のときのバックアップ体制」と説明しても、「自分が外される、辞めさせられる」という不安感情が起こる。

それは絶対に避けること。

以上